

# ふなやま 由美さん 市民と親しく懇談



9月22日のお彼岸。日本共産党のふなやま由美さん（東北比例予定候補）が一日、陸前高田市入り。市内2カ所で懇談会、アバッセ前で街頭演説を行いました。

## 「東北で初の2議席を！」

懇談の中で、東北6県を回ってきたことを話し、菅首相の出身地・秋田県湯沢市では、歓迎ムードもあったが、新型コロナの影響が深刻で「何とかしてほしいという声が強かった」と。青森県の下北ではホタテがコロナと貝毒で漁民から「どうしようもない」という落胆の声。山形県鶴岡市では、派遣社員が解雇され、点々と寝泊まり、「困ったら共産党に相談」のスマホを見て市議会議員に連絡。協力して住まいを確保。「貧困は自分のせいと思っていた。社会が悪いと知り、日本共産党に入党」の話も語りました。

菅首相をマスクミが持ち上げているが…

## 「安倍政治継続で国民に自己責任を押し付け」



3・11の時、私は仙台市議として避難所を駆け回りました。今回、陸前高田の人たちの出会いに胸が熱くなりました。「避難所から支え合ってきた仲間がいるから生きることができた」「親も兄弟も失って、だから日本共産党は私の家族」「ぜひ医療や介護を安心してできるように」「戦争も原発もダメ」… 私も宮城県丸森の農家出身、昨年大水害を受けました。東北のためにがんばります。

ふなやまさんから



藤倉議員

9月議会報告④

この秋 重要

9月議会、一般質問のあとの9月14日から3日間、決算審査が特別委員会で開催されました。予算の各項目ごとに質疑、日本共産党の藤倉泰治、大坪涼子、伊勢純3議員の発言の中から紹介します。

## インフルエンザ予防接種

大坪議員は、この秋から冬にインフルエンザが流行し新型コロナ感染と重なった場合の対策として、インフルエンザと肺炎球菌予防接種の重要性を強調。これまでのハガキだけではなく、予防接種の周知を強く求めました。



大坪議員

昨年の接種率は約60%

千葉恭一福祉部次長は、「市内の接種率は約6割」「厚労省は高齢者を優先にした予防接種の方針を発表」とし、これまで以上の周知を図る」と答え、戸羽市長も、「新型コロナとインフルエンザ同時に起きないように注視し、国県にもワクチン確保を働きかける。予防接種を強くよびかける」考えを示しました。

市営と同じく

## 県営栃ヶ沢アパートの家賃軽減を

伊勢議員は、現役世代の災害住宅の家賃が高すぎる問題を取り上げ、「陸前高田市の市営住宅の家賃は『みなし特別公共賃貸制度』により大幅に軽減している。県営の災害住宅も軽減すべき。」と主張。市では「県に改善を求めている」考えを示しました。



伊勢議員

## イシカゲ貝 砂詰機械6台

「なくてはならない設備」

藤倉議員は、昨年の市補助金で整備された「イシカゲ貝省力砂詰機械6台」（2千8百万円）の実績について質問。菅野泰浩水産課長は、「今ではイシカゲ貝生産にはなくてはならない設備。長部、米崎、小友に配備」と答え、養殖漁業者の作業の大きな力になっていることが示されました。

